

おかあさん、ありがとう

長崎県 南島原市立野田小学校 四年

門畑 英菜乃

「お母さん、今日は学校、来ないでいいよ。」じゅ業参かんの日になると、わたしはお母さんにいつもそう言っていた。それは、わたしの家はその業をしていて、お母さんはときどき、作業着のまま学校に来るからだ。友だちのお母さんたちは、きれいにおけしようにして、きれいな服を着て来る人が多い。だから、お母さんが作業着で来るのがはずかしかった。「先生、今日のじゅ業参観には、お母さん、来ません。」と言ったのに、お母さんはここにこして教室に入つて来る。今日はきれいな服で来ているかなとわたしはそればかりが気になった。

六月の道とくの時間のことだった。「おばあさんのおむかえ」という話を読んだ。主人公の友紀さんのおばあさんは、雨ふりの中、足が悪いのに、友紀さんをむかえに来る。しかし、友だちがおばあさんの足のことをわらったので、友紀さんはおばあさんに、「おばあちゃん、先に帰つて、早く、早く。」とおいかえしてしまふ。先生が「おばあさんの後ろすがたを見て、友紀さんはどう思ったでしょう。」と言われた。わたしは、ふき出の中に、（おばあちゃん遠いところからむかえに来てくれてありがとう。ごめんさい。）

と書いた。足が悪いのに自分のために歩いて来たおばあちゃんに、友だちからちよつと言われただけで、ひどいことを言つて悪かつたと思つたからだ。そして、よく考えてみたら、わたしも友紀さんと同じだと思つた。お母さんは仕事をとちゆうでやめて、わたしを見にきてくれるのに、「お母さん、今日は学校、来ないでいいよ。」と言つていたのだ。わたしは急にはずかしくなつた。お母さんは悲しかっただろう。お母さん、ごめんなさいとわたしは思つた。

わたしのうちは、いそがしいときは、朝五時からみんなそろつて畑仕事だ。学校へ登校していると、家族みんなが畑からわたしに手をふる。わたしは少しはずかしくて下を向く。あるとき、お母さんから、「英菜乃、あんた、のう業ばはずかしいと思つたらんね。それはまちがつとるよ。あんたがご飯を食べたり、ほしい物を買つてもらつたり、習い事にいけるのは、みんな、のう業のおかげやし、じいちゃん、ばあちゃん、お父さんのおかげとよ。今度、いっしょに畑で働いてごらん。」と言われた。それから、わたしはときどき畑仕事に行くことにした。みんなが一生けん命あせをかいて仕事をしている。お母さんも作業服すがたがあつている。そして、仕事が終わると、いつも、お母さんが、「英菜乃、今日は助かつたよ。ありがとう。」と言つてくれる。こちらこそ、おかあさん、いつもありがとう。そして、のう業をしていてくれてありがとう。